と思えるし，八丈島・御蔵島などでも試みる価値は充分にあると思う。

5月8～9日に採集できたカミキリは次の9種。

1. ヒメクロトラカミキリ
Rhaphuma diminuta (BATES)
多数，大路池～新澪池，8～9．V

2. ハチジョウウスアヤカミキリ
Bumetopia heiana HAYASHI
1♀，角屋敷，8．V；1♂1♀，坪田，8．V

3. ワモンサビカミキリ
Pterolophia (*Hylobrotus*) *annulata* (CHEVROLAT)
2♂♂1♀，角屋敷，8．V

4. アトモンサビカミキリ
Pterolophia (*Pterolophia*) *granulatus* (MOTSCHULSKY)
1♂1♀，角屋敷，8．V

5. トカラヤハズカミキリ
Uraecha gilva hachijoensis HAYASHI
2♂♂1♀，角屋敷，8．V

6. イズニセビロウドカミキリ
Acalolepta sejuncta izuinsulana HAYASHI
1♀，角屋敷，8．V

7. クモノスモンサビカミキリ
Graphidessa venate BATES
14♂♂15♀♀，大路池～角屋敷，8～9．V

8. ドイカミキリ
Doius divaricatus fulvovariegatus HAYASHI
4♂♂11♀♀，大路池～角屋敷，8．V；4♂♂2♀♀，三池，9．V

9. コゲチャサビカミキリ
Mimectatina meridiana (MATSUSHITA)
2♂♂1♀，角屋敷，8．V；1♂1♀，三池，9．V

ワモンサビ・アトモンサビ・ドイは著しく汚損しており，越冬個体と思われるものであった。

なお，9日に大路池畔で切りとったカラスザンショウ枯枝よりタイワンメダカカミキリ（27♂♂20♀♀，19．VI～10．VIII．1976），ドイカミキリ（6♂♂4♀♀，5．VIII～7．X．1976）のほか，目的のキイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (HAYASHI) が羽化した（25♂♂12♀♀，11．VII～3．X．1976）が，これは伊豆諸島では御蔵島の1♂に次ぐもので，三宅島初記録種である。

タイワンメダカは6～7月がピークで，その後は少しずつ羽化し，キイロアラゲは7月11日に最初の1♂が羽化した後，7～8月がピークとなり，10月3日に1♀が



キイロアラゲカミキリ　左：♂　右：♀

羽化するまで，84日間も羽化し続けていた。ドイは一番遅く，8月より羽化し，9月上～中旬がピーク，10月まで羽化していた。

この枯枝は，大路池の水面に向ってつき出していた地上より2mくらいの位置にあったもので，根本の直径が4cm弱，長さ3mほどの比較的細いものであった。

（藤田：〒110　台東区台東2-29-6）
（小笠原：〒165　中野区東中野5-9-7　肠屋亘方）

アカムネハナカミキリの新産地ならびに成虫の生態に関する知見

松井　正通

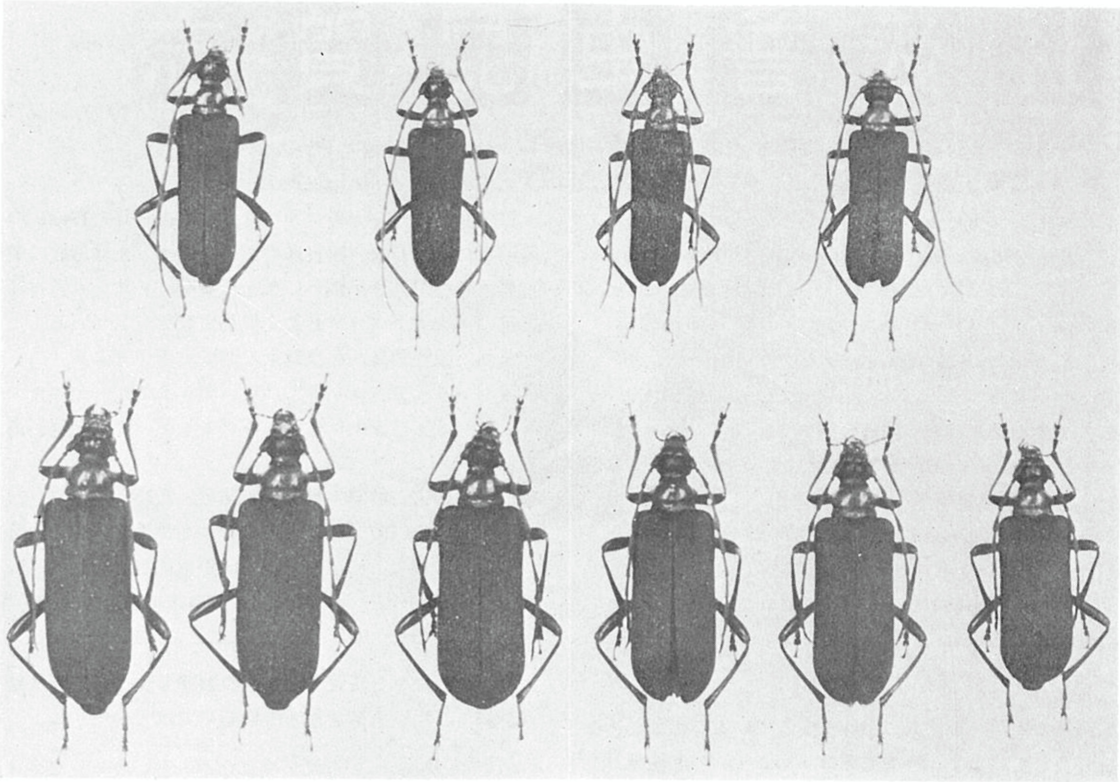
アカムネハナカミキリ *Macropidonia ruficollis* PIC は現在まで美ヶ原，日光，入笠山などより記録されているが，いずれの産地でも比較的少ないもののようである。筆者は長野県南佐久郡川上村奥秩父国有林において本種を採集したが，秩父山塊での記録は初めてと思われるので，ここに新産地として報告する。

4♂♂6♀♀，長野県南佐久郡川上村奥秩父国有林，17～18．VII．1976，松井正通採集

♂は体長13.5～15mm，♀は体長15～19mm。

採集する前日まで梅雨があけず不順な天候が続いていたが，当日は非常な好天に恵まれた。採集地の状況は植林されたカラマツ林の林縁で，シラカバが点在し，ススキ，イタドリ，ヤナギランなどが生えるどこにでも見られるような環境であった。

7月17日14時40分，最初の1頭がススキ葉上にゆっくりと飛来し，ぎこちなく動いて葉上に静止したが，飛翔中は一見ホタルかジョウカイボンの1種かのように見えた。日中はこの1頭を観察したのみで，他はすべて午後4時過ぎ，日が傾いて少し風が出てくるようになってから出現し，いずれもイタドリの葉上で触角を少し動かしながら長い間静止しており，不用意に手を出すと落下するものの素手で捕えることもたやすかった。イタドリの



アカムネハナカミキリ　上段：♂　下段：♀

下部にとまることは少ないようで，いずれも上部の一番目につきやすい（飛来した時一番とまりやすい）部分の葉上に見られた。最後に採集したのは18時30分で，すでに暗くなりかけていた。夕方に多く見られたので薄明時に採集しやすい種かと思い，翌朝6時頃より付近を調べてみたがまったく見られず，8時過ぎ，気温がいくらか上昇してくるのが感じられるようになって始めて，1♂がイタドリの下部から茎を伝わって上部へ移動してくるのを観察した。この♂は上部の葉までのぼってから触角を脚でこするようなしぐさをして，その後は体についた湿気を乾かすように陽光を浴びて長い間静止していた。この時はこの1頭しかみられず，やはり午後4時過ぎまで1頭も付近から発見できなかったが，夕刻には前日と同じくイタドリ葉上と付近の雑草の枯れ茎に静止している個体が見られた。

両日を通じ，付近の白色花を丹念に調べたが花からはまったく見い出せなかった。美ヶ原ではヤマボウシ，ノリウツギの花上から得られているので，訪花するものと予想していたが，セスジヒメハナ，ニンフハナ，ツヤケシハナその他ハナカミキリの普通種が多く見られただけなのは意外であった。以上のことからして，本種は一般のハナカミキリと比べ，何か生態的に異なっているように思われ，今までの採集例の少ないのも単に発生する個体数が少ない？だけでなく，採集方法にも問題があるように思われる。成虫の日中の生態が判然としなかったのは残念だったが，本種がイタドリと何か密接な関係にあるように思え興味深い。

（〒386-11　上田市下ノ条1015-5）

波照間島のカミキリ

矢野　立志

1975年4月13～15日に八重山群島波照間島にて採集を行い，計14種のカミキリを得ることができた。従来，この島におけるカミキリの記録はほとんど知られていなかったようなので，採集品のリストを報告しておく。

1. ヒゲナガヒメカミキリ
   Ceresium longicorne PIC, 3 exs.
2. リュウキュウヒメカミキリ[2)]
   Ceresium fuscum shirakii HAYASHI, 2 exs.
3. ムネモンアカネトラカミキリ
   Xylotrechus atronotatus gererosus MATSUSHITA 1 ex.